

地域社会との連携①

連携する目的は、総則に示されている

学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。

1 家庭との連携

○ 保護者とのコミュニケーション

家庭とのパートナーシップ

- ・ 学校教育を円滑に進めるために、学校は家庭とのパートナーシップを築くことが不可欠です。
- ・ 保護者との関係づくりを進めるための代表的な手段としては、学級・学年・学校だより等の通信、保護者会、PTA、三者面談、学校行事などが挙げられます。

○ 保護者とのコミュニケーション

保護者との関係づくりを進めるために

あらかじめ学校で保護者へ速やかに電話連絡する事項を明確化し（例えば、児童が転んでけがをした、児童生徒同士のけんかがあったなど）、そのようなことが起きた場合には、躊躇せず、すぐに連絡することが保護者との信頼関係の構築に寄与することになります。

「生徒指導提要(改訂版)」より

2 地域との連携

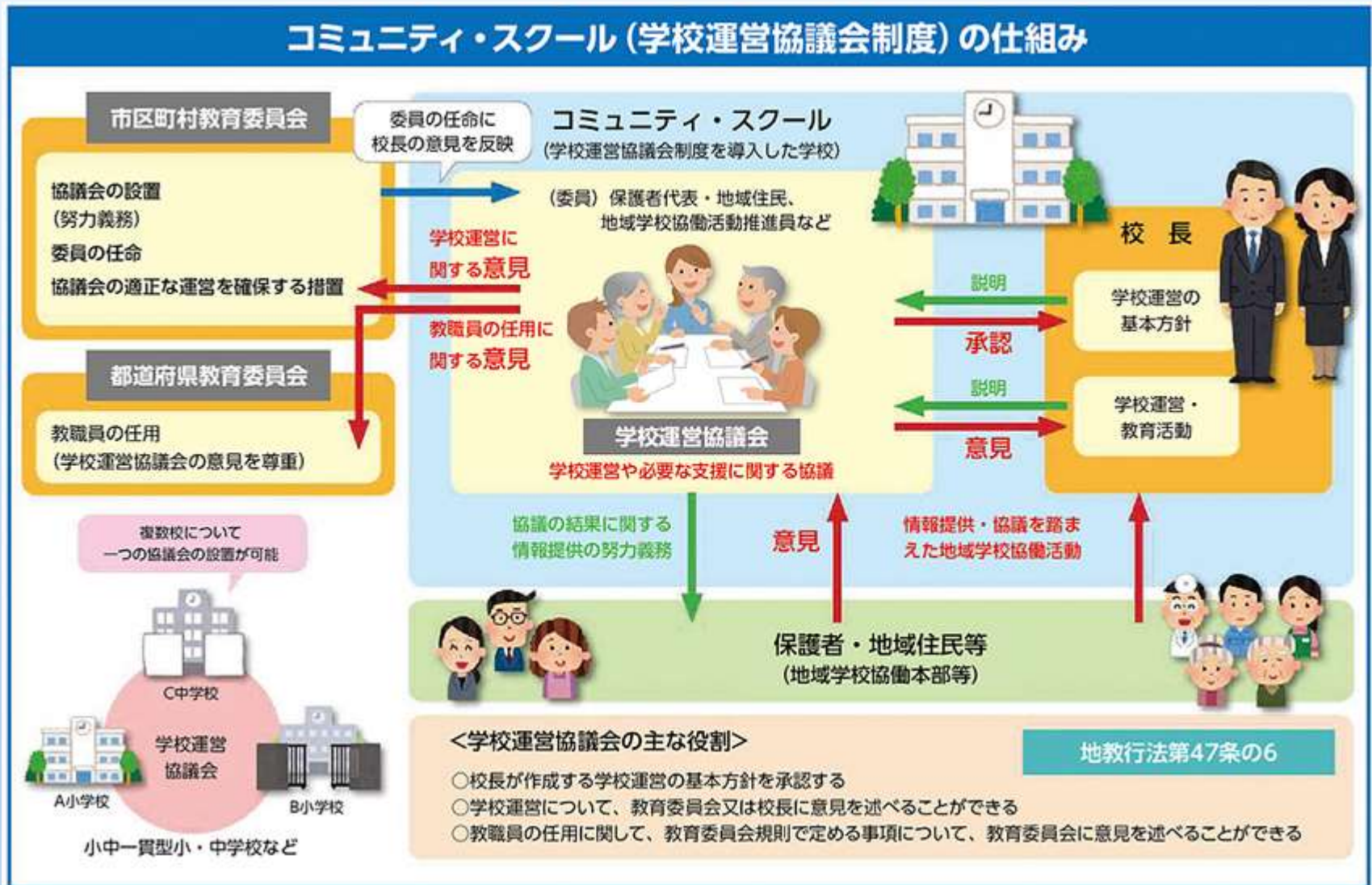
○ 地域住民とのコミュニケーション

「社会に開かれた教育課程」の実現

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。

教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

○ 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）



出典：文部科学省 学校と地域でつくる学びの未来
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

○ 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）

校種	設置 学校園数
幼稚園等	19
小学校	646
中学校	385
義務教育学校	15
高等学校	37
特別支援学校	36
計	1138

本道における 学校運営協議会の 設置学校数

（令和4年5月1日現在）

導入している自治体の
割合は、**95.0%**

【参考】

令和3年5月1日：1065校

【地域と協働体制を構築したコミュニティ・スクールの取組】

<寿都高校の学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組の紹介>



★ここがポイント★

寿都高校第2学年の生徒が、学校運営協議会委員が所属する企業等で職場体験を実施できるよう、地域学校協働活動推進員がインターンシップの日程調整等を行っています。

地域学校協働活動推進員の支援による
インターンシップの実施



★ここがポイント★

町内で実施する「花いっぱい運動」に全校生徒で参加しています。
生徒は、地域住民との協働活動により、地域貢献への意識を高めています。

全校生徒が地域貢献として参加する
「花いっぱい運動」



★ここがポイント★

町内の小・中学校、高等学校の児童生徒が、一堂に会し、キャリア学習について発表する際、寿都高校第1学年の生徒が、産業や観光に関する町への提言を行いました。
最後に寿都町長から、これからの町の取組について講評をいただくなどして、生徒は、地域創生への意識を高めています。

地域が一体となって子どもたちや町の未来を考える
寿都町小中高キャリア教育合同発表会

【学校運営協議会委員の意見より】

- ・子どもたちの力が、様々な場所で発揮できるよう、地域ぐるみの教育を行う必要があると思います。
- ・進路活動の充実に向けて支援していきたいです。
- ・寿都高校の活発な地域貢献や教育活動を嬉しく思っています。

寿都高校の取組は、地域と学校でできることを確実に積み重ね、地域貢献に喜びを見出す生徒の育成が図られている好事例です。

1

【地域の資源や特色を生かした地域学校協働活動】

鉏路町 鉏路管内

【活動名】

鉏路町地域学校協働活動推進委員会

【関係する学校】

町内全ての小・中学校



地域ボランティアが関わった体力測定の様子

【活動の概要】

4つの中学校区にそれぞれ、地域学校協働活動推進員を配置し、学校と地域が連携した活動を実施している。全ての小・中学校区において導入したコミュニティ・スクールでは、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員に加わることで、地域人材を授業で活用することを提案している。

【特徴的な活動内容】

学校運営協議会で熟議を実施する中で、「キャリア教育の充実が必要である」ことについて、学校と地域の共通認識が図られ、様々な職種の人から仕事に対する想いを聞く「職業人講話」を実施した。

【事業の成果】

中学校区ごとに学校運営協議会を設置し、9年間で目指す子ども像を共有できたことで、小中の連携が深まり、この目標にそった地域学校協働活動を展開できている。



地域学校協働活動推進員の皆さん

【コミュニティ・スクールにおいて成果を上げた事例】
地域に学ぶ 地域と学ぶ 体験活動の充実

「ふるさとへの愛着心を育み、先人の苦勞を知る。
そして、食育活動の一環として」
(南富良野町 南富良野西小学校)



「稲刈り体験」の様子

【コミュニティ・スクールにおいて成果を上げた事例】 「地域とともに歩む学校」を目指して

地域コーディネーターの活用 (斜里町 知床ウトロ学校)



「ウトロもやいの会」の様子

【コミュニティ・スクールにおいて成果を上げた事例】 地域の魅力を体感する教育活動の充実

地域に根ざしたキャリア教育の充実 (上士幌町 上士幌高等学校)



「面接指導」の様子

【コミュニティ・スクールにおいて成果を上げた事例】
子どもたちの実態から既存の取組を見直し

熟議を通じた現状と課題の共有 (遠別町)



「冬の森林教室」(小学校)



「ホタテの稚貝の仕分け体験」(中学校)

3 学校間の連携

他の小（中・高等・特別支援）学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。

<幼児教育と小学校教育の接続>

私立幼稚園教諭と小学校教員の授業交流 (岩見沢市)

- ・ 教員による授業交流を行っている。
- ・ 保育参観の際に、事前に小学校の教員に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を配付し、保育参観の視点を明確にするとともに、幼小連携で育む子どもの姿を共有している。
- ・ 自由交流期間を設定し、自由に相互の幼稚園及び学校を訪問できるよう工夫したことで、気軽に訪問し合える風土をつくっている。



幼稚園教諭と小学校教員が交流する様子

アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムの作成 (共和町)

- ・ 幼児センターと小学校で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育内容の充実を図っている。
- ・ 幼児センターと小学校では、双方の管理職や教務主任等を中心として、幼小合同で接続期のカリキュラムを作成、6月にはスタートカリキュラムの検証、3月にはアプローチカリキュラムの検証を行うことで、教育内容の充実・改善を図っている。



小学校における体験学習

<小学校教育と中学校教育の接続>

小中一貫教育の取組（八雲町）

- 9年間を通じた指導計画の作成
 - ・ 中学校数学、英語、音楽の教科担任による小学校5・6学年の児童を対象にした乗り入れ指導を実施し、指導方法の確立を図った。
 - ・ 個に応じた指導の充実に向け、小学校の学級担任による中学校第1学年の数学の授業への乗り入れ指導を実施した。



「北海道における小中一貫教育について（第3版）」（令和2年（2020年）3月）
「モデル地域及びモデル校における取組事例」を基に作成

< 中学校教育と高等学校教育の接続 >

6年間を通じたキャリア教育プログラム（総合的な学習の時間）の取組

- ・ 中学1学年から高校3学年までの総合的な学習の時間を活用した、キャリアプログラムの作成

学年	目的	主なプログラム
中学1年	・ 地域から身近な職業への結びつきを知り、興味関心を持つ。	・ 「中学生の頃の私」講演会 ・ 身近なもの周りの仕事（調べ学習） ・ 進路ガイダンス 他
中学2年	・ 生き方・在り方から職業へと考え方を広げる。	・ 人はなぜ働くのか ・ 高校生のライフスピーチⅠ・Ⅱ ・ 「職業と私」講演会 ・ プレゼンテーション 他
中学3年	・ 職業を体験する中で、勤労観・職業観について考える。	・ マナーを学ぼう ・ インターンシップ（1日） ・ プレゼンテーション 他
高校1年	・ 自分に向き合い、自己を知る。 ・ 興味のある様々な職業を調べ、実現過程を知る。 ・ マナーについて知り、自分・職業について語る。	・ 自己理解 ・ 職業研究Ⅰ・Ⅱ ・ ライフプランⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・ 進路講演会 ・ 基礎面接 他

【6年間を通じたキャリア教育プログラム】

参考資料

【これからの学校と地域】

